

日本塩業史研究文献目録(焼塩壺編) 研究論文・研究ノート

1	中盛彬「泉州麻生と泉湊伊織の塩焼壺」(中盛彬1819年『拾遺泉州志』(かりそめのひとりごと)、中盛彬著・出口神暁 校訂1967年10月『拾遺泉州志』和泉史料叢書第1 和泉文化研究会)
2	中川近礼年「宝丹主人の薬園より掘出せし古物」『考古学会雑誌』第9号 考古学会事務所 1897年
3	島田貞彦「考古片録(三)(十五)泉州麻生在銘小壺」『歴史と地理』第18巻3号 星野書店 1926年9月
4	高橋艸葉(直人)「堺の焼塩壺」『中央史壇』第14巻3号 国史講習会 1928年3月
5	前田文林(長三郎)『堺焼塩壺考(堺湊の焼塩壺考(未定稿))』前田長三郎 1931年6月 謄写版・限定50部
6	前田長三郎「堺焼塩壺考」『武蔵野』21巻3号 武蔵野会 1934年3月
7	井上清(?)「口繪(2)東京市内出土塩壺(東京市技師竹内二三氏寄贈)」『武蔵野』21巻3号 武蔵野会 1934年3月
8	山沢散水庵「堺焼塩壺考 芝公園の焼塩壺」『武蔵野』21巻3号 武蔵野会 1934年3月
9	三輪善之助「堺焼塩壺考 御殿山の塩壺」『武蔵野』21巻3号 武蔵野会 1934年3月
10	小谷方明(校訂) 1936年3月『和泉国村々名所旧跡附』和泉郷土文庫
11	時雨音羽「焼塩の始め」『塩と民族』日本講演協会 1943年7月
12	和泉文化研究会(出口神暁)編1953年3月「和泉の古印 其十二」『和泉志』第7号 和泉文化研究会
13	「江戸時代の産業 水産業 津田の花形塩、「泉州麻生」刻印の図」(貝塚市臨時貝塚市史編纂部編1955年3月『貝塚市史 第1巻』通史 貝塚市役所)
14	星野猷二「京都市内出土の小壺形土師器」『古代学研究』15・16合併号 古代学研究会 1956年11月
15	桑田忠親「天下一の號」『國學院雑誌』第57巻第7号 國學院大學出版部 1956年12月
16	平野文造「堺湊壺塩・湊壺屋の旧宅」『堺の史話』1 和泉郷土図書館 1966年
17	和泉文化研究会編1967年10月『和泉史料叢書 拾遺泉州志 全』和泉文化研究会
18	和泉文化研究会(出口神暁)編1968年10月『和泉史料叢書 農事調査書』和泉文化研究会
19	近野正幸「東京都品川区東大井出土の焼塩壺について」『立正考古』29 立正大学考古学研究室 1969年
20	「赤穂義士随筆(「名産花形塩の図」)」(日本随筆大成編集部編1975年1月『日本随筆大成第2期 24』吉川弘文館)
21	佐々木達夫・佐々木花江「東京都日枝神社境内遺跡の発掘」『月刊考古学ジャーナル』105 ニュー・サイエンス社 1975年2月
22	南川孝司「泉州湊麻生の壺焼塩考(泉州湊、麻生壺焼塩考(上))」『摂河泉文化資料』創刊号 北村文庫会 1976年1月
23	多治比郁夫・日野竜夫編1977年1月『校本 難波丸綱目』中尾松泉堂書店
24	川口宏海・小山繁夫・中島健吾「堺市浄光寺出土の焼塩壺について」『陵』3・4号合併号 仏教大学考古学研究会 1977年3月
25	天野政徳「天野政徳随筆(「焼塩壺」)」(日本随筆大成編集部編1977年3月『日本随筆大成第3期 8』吉川弘文館)

26	南川孝司1977年『貝塚の史跡』北村文庫会
27	宮本常一「消費の方法 焼塩・塩漬」(日本塩業大系編集委員会編1977年3月『日本塩業大系 特論民俗』日本専売公社)
28	佐々木達夫「幕末・明治初頭の塩壺とその系譜」『月刊考古学ジャーナル』134 ニュー・サイエンス社 1977年4月
29	岩井宏美編1977年10月『江戸時代図誌18 畿内2』筑摩書房
30	森村健一「堺・浄光寺本堂跡と湊焼・甕について」『摂河泉文化資料』19・20号(5巻-1・2号)北村文庫会 1980年
31	小野谷朝生・大西長利解説1980年4月『柴田是真著 柴田是真の図案手本』グラフィック社
32	渡辺誠「松本城二の丸跡出土の焼塩壺」『信濃』第34巻第1号 信濃史学会 1982年1月
33	滋賀県立近江風土記の丘資料館編1982年11月『出土品にみる江戸時代の生活 彦根城家老屋敷出土品を中心に』滋賀県立近江風土記の丘資料館
34	森村健一・上野俊雄・白神典之「第4章第2節 堺環濠都市遺跡出土土器・陶磁器編年試案」(堺市教育委員会編1983年3月『堺市文化財調査報告 第15集』堺市教育委員会)
35	渡辺誠「第6章第4節 焼塩壺」(古代学協会(渡辺誠・南博史)編1983年12月『平安京土御門烏丸内裏跡一左京一條三坊九町』平安京跡研究調査報告第10輯 財団法人古代学協会)
36	渡辺誠「焼塩壺」『民具研究』第52号 日本民具学会 1984年7月
37	渡辺誠「焼塩壺について」『江戸のやきものシンポジウム 発表要旨』五島美術館 1984年
38	渡辺誠「焼塩壺」(松本市教育委員会(住田正・神沢昌二郎・柳原行垣)編1985年3月『松本城二の丸御殿跡発掘調査一史跡公園整備報告書一』松本市教育委員会)
39	鈴木重治「堺の焼塩壺」『日本民俗文化大系』13 技術と民俗(上)海と山の生活技術誌 小学館 1985年5月
40	渡辺誠「焼塩」『講座・日本技術の社会史』2 塩業・漁業 日本評論社 1985年8月
41	長瀬衛「C 塩壺」(都立一橋高校内遺跡調査団(古泉弘・金箱文夫)編1985年8月『江戸一都立一橋高校地点発掘調査報告一』都立一橋高校内遺跡調査団(全2冊、本文、別刷図版(写真))
42	中野三敏1985年9月『江戸名物評判記案内』岩波新書 岩波書店
43	渡辺誠「物資の流れ一江戸の焼塩壺一」『季刊考古学 特集 江戸時代を掘る』第13号 雄山閣 1985年11月
44	新屋隆夫1985年12月『堺陶芸文化史』同朋社
45	菅沼圭介「塩壺類について」(港区麻布台一丁目遺跡調査団編1986年3月『麻布台一丁目 郵政省飯倉分館構内遺跡』港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告3 港区麻布台一丁目遺跡調査会)
46	熊取町教育委員会編1986年11月『熊取の歴史』熊取町
47	小川望「東京大学本郷構内遺跡の発掘調査一医学部付属病院地点一」『月刊考古学ジャーナル』282 ニュー・サイエンス社 1987年10月
48	渡辺誠「粗塩・堅塩と焼塩のこと」『月刊考古学ジャーナル』284 ニュー・サイエンス社 1987年12月
49	小林克ほか「(二)遺物A 陶磁器類」(真砂遺跡調査団(小林克ほか)編1987年12月『東京都文京区 真砂遺跡』真砂遺跡調査会)
50	小川望「焼塩壺一東京大学構内遺跡出土資料を中心に一」『江戸の食文化(江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨)』江戸遺跡研究会 1988年1月
51	渡辺誠「焼塩壺」『江戸の食文化(江戸遺跡研究会第1回大会発表要旨)』江戸遺跡研究会 1988年1月

52	高山優「3 遺物 焼塩壺」(港区芝公園1丁目遺跡調査団編1988年3月『芝公園一丁目 増上寺子院群光学院・貞松院跡・源興院跡一港区役所新庁舎建設に伴う発掘調査報告書』東京都港区教育委員会)
53	大塚達朗「考古学的視点からの焼塩壺の検討」『東京の遺跡』No.19 東京考古談話会 1988年5月
54	小林謙一「江戸在地系土器研究の現状と課題—麻布台一丁目遺跡出土の瓦質・土師質土器の整理から—」『江戸在地系土器勉強会通信(仮称)』1 1988年5月
55	寄立美江「中里遺跡出土の泥めんこ類」『江戸在地系土器勉強会通信(仮称)』7 江戸在地系土器研究会 1989年1月
56	山口剛志「第2節 人工遺物各論 5 焼塩壺」(東京大学遺跡調査室(羽生淳子)編1989年3月『東京大学本郷構内の遺跡 理学部7号館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1 東京大学遺跡調査室)
57	両角まり「土師質土器類の成形・調整痕について」『江戸在地系土器研究会通信』9 江戸在地系土器研究会 1989年5月
58	森本伊知郎「遺物による遺構の年代(廃絶年代)推定について」(白金館址(特別養護老人ホーム建設用地・亜東関係協会東京弁事処公舎等建設用地)遺跡調査団編1989年6月『白金館址遺跡3(研究編)』白金館址(特別養護老人ホーム建設用地・亜東関係協会東京弁事処公舎等建設用地)遺跡調査会)
59	土山健史「堺環濠都市遺跡における、15・16世紀の在地土器」『中近世土器の基礎研究』5 中世土器研究会 1989年11月
60	小川望「近世土器研究の現段階—「江戸在地系土器」について—」『貝塚』43 物質文化研究会 1989年12月
61	大塚達朗「研究編 第8章 焼塩壺の考古学視点からの基礎的研究」(東京大学遺跡調査室(大塚達朗)編1990年3月『東京大学本郷構内の遺跡 法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書2 東京大学遺跡調査室)
62	小川望「第5章 考察 第五節 刻印からみた焼塩壺の系統性について—東京大学構内遺跡病院地点出土資料を例に—」(東京大学遺跡調査室(藤本強)編1990年3月『東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地点—医学部附属病院中央診療棟・設備管理棟・給水設備棟・共同溝建設地点—』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3 東京大学遺跡調査室)
63	鈴木裕子「焼塩壺」(東京大学埋蔵文化財調査室(寺島孝一)編1990年10月『東京大学本郷構内の遺跡 山上会館・御殿下記念館地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書4 東京大学埋蔵文化財調査室)
64	小川望「泉州麻生」を生み出した「花塩屋」について」『江戸在地系土器研究会通信』22 江戸在地系土器研究会 1991年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
65	桐生直彦「杉並区上井草出土の焼塩壺」『江戸在地系土器研究会通信』22 江戸在地系土器研究会 1991年5月
66	小川望「麻布台N26Pにおける廃棄と遺構の認定について」『江戸在地系土器研究会通信』24 江戸在地系土器研究会 1991年10月
67	小林謙一「麻布台一丁目遺跡N26号土壌の塩壺類について」『江戸在地系土器研究会通信』24 江戸在地系土器研究会 1991年10月
68	大塚達朗「焼塩壺考(1) —東京大学本郷構内遺跡資料より—」『東京の遺跡』31 東京考古談話会 1991年4月
69	大塚達朗「焼塩壺考(2) —東京大学本郷構内資料より—」『東京の遺跡』32 東京考古談話会 1991年6月
70	小川望「口クロ成形の焼塩壺に関する一考察—法量分布と組成から見た「系統」について—」『江戸在地系土器の研究』1 江戸在地系土器研究会 1991年7月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
71	大塚達朗「焼塩壺研究の新展望」『中近世土器の基礎研究』7 日本中世土器研究会 1991年11月
72	田中一廣「泉州名産『焼塩壺』—京都・護王神社境内及び妙心寺塔頭出土資料の紹介をかねて—」『関西近世考古学研究』2 関西近世考古学研究会 1991年11月
73	小川望「大名屋敷出土の焼塩壺」(江戸遺跡研究会編1992年1月『江戸の食文化』吉川弘文館)
74	渡辺誠「焼塩壺」(江戸遺跡研究会編1992年1月『江戸の食文化』吉川弘文館)
75	田中一廣「泉州名産『焼塩壺』の足跡」『関西近世遺跡の在地土器の生産と流通(第4回関西近世考古学研究会大会資料集)』関西近世考古学研究会 1992年
76	両角まり「増上寺子院群出土の墨書土師質土器について」『江戸在地系土器研究会通信』28 江戸在地系土器研究会 1992年

77	小川望「墨書を有する明治期の焼塩壺—東京大学本郷構内遺跡御殿下記念館地点出土資料から—」『江戸在地系土器研究会通信』29 江戸在系土器研究会 1992年
78	小林謙一・両角まり「江戸における近世土師質塩壺類の研究」『東京考古』10 東京考古談話会 1992年5月
79	小川望「有印土製円盤と有孔方板状石製品—「温石」と報告される中近世の遺物について」『東京考古』10 東京考古談話会 1992年5月
80	榎淵規彰「近世陶磁器の研究(1) 神奈川県出土の近世陶磁器類」『神奈川考古』第28号 神奈川考古同人会 1992年5月
81	小川望「鉢形土器類」『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題1 発表要旨』江戸陶磁土器研究グループ 1992年12月
82	両角まり「土師質塩壺類」『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題1 発表要旨』江戸陶磁土器研究グループ 1992年12月
83	大塚達朗「焼塩壺考(3) —焼塩壺の定義1—」『東京の遺跡』37 東京考古談話会 1992年10月
84	松田訓「粗塩・焼塩・精製塩」『教育愛知』40巻8号(通巻474号) 愛知県教育委員会 1992年11月
85	長佐古真也「出土陶磁器の様相からみる消費地・江戸」『月刊考古学ジャーナル』356 ニュー・サイエンス社 1993年1月
86	東京大学埋蔵文化財調査室編「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)」『〈東京大学構内遺跡調査研究年報2 1997年度別冊〉東京大学埋蔵文化財調査室 1993年3月
87	小川望「中盛彬『拾遺泉州志』と焼塩壺研究」『江戸在地系土器研究会通信』33 江戸在地系土器研究会 1993年3月
88	両角まり「近世土師質塩壺類成形技法の復元とその意味」『江戸在地系土器研究会通信』33 江戸在地系土器研究会 1993年3月
89	両角まり「近世土師質塩壺類成形技法の復元とその意味(補遺)」『江戸在地系土器研究会通信』34 江戸在地系土器研究会 1993年5月
90	小林謙一「真砂遺跡第3地点1号遺構の土師質塩壺類」『江戸在地系土器研究会通信』35 江戸在地系土器研究会 1993年6月
91	小川望「墨書を有する蓋形製品—真砂第3地点1号遺構出土資料—」『江戸在地系土器研究会通信』35 江戸在地系土器研究会 1993年6月
92	渡辺誠「出島・長崎市内出土の焼塩壺」『長崎出島の食文化』親和文庫第17号 親和銀行ふるさと振興基金 1993年3月
93	桐生直彦「焼塩壺の流通と多摩」『多摩地域史研究会会報』第12号 1993年
94	小川望「鉢形焼塩壺類の花塩屋—考古資料と文字資料の検討から—」『東京考古』11 東京考古談話会 1993年4月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
95	能芝勉1993年6月『焼塩壺と花焼塩』リーフレット京都No.53(土器・瓦⑩) 財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館
96	小川望「武蔵野郷土館旧蔵の焼塩壺と『武蔵野』」『武蔵野』71巻2号(323号) 武蔵野文化協会 1993年12月
97	青木正至「荒木町遺跡出土の塩壺類」(荒木町遺跡調査団(朽木量・工藤敏久)編1994年3月『東京都新宿区 荒木町遺跡発掘調査報告書』荒木町遺跡調査団)
98	小川望「御壺塩師/堺湊伊織の刻印をもつ焼塩壺について」『江戸在地系土器の研究』2 江戸在地系土器研究会 1994年3月
99	桐生直彦「江戸近郊の焼塩壺」『江戸在地系土器の研究』2 江戸在地系土器研究会 1994年3月
100	両角まり「江戸在地系土器におけるロクロ技術の展開」『江戸在地系土器の研究』2 江戸在地系土器研究会 1994年3月
101	田中一廣「京都深草の「焼塩壺」伝世品」『大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要』2 財団法人大阪府埋蔵文化財協会 1994年3月
102	パリオ・サーヴェイ株式会社「瓦質土器・焼塩壺・瓦の胎土分析」(新宿区南町遺跡調査団編1994年3月『東京都新宿区 南町遺跡—兵庫県東京宿舎市ヶ谷寮改築工事に伴う緊急発掘調査報告書—』新宿区南町遺跡調査団)

103	両角まり「底部内面に巻簾状の圧痕を持つ土師質塩壺について—小田原城下中宿町遺跡第2地点出土の資料—」『江戸在地系土器研究会通信』43 江戸在地系土器研究会 1994年11月
104	中山経一「6 焼塩壺」（東京大学構内雨水調整池遺跡調査会（新里康・菅原道ほか）編1994年3月『本郷追分—東京大学農学部構内および隣接区道における下水道工事に伴う発掘調査報告書』東京大学構内雨水調整池遺跡調査会（全3冊、本文編、遺物編、遺構編））
105	増山仁「焼塩壺って何？」『石川考古』222 石川考古学研究会 1994年3月
106	成瀬晃司・堀内秀樹・両角まり「東京大学理学部附属植物園内の遺跡研究温室地点—SK27出土の一括資料—」『東京考古』12 東京考古談話会 1994年4月
107	伊藤末子・小川望「火だすき」のついた焼塩壺と絵画資料『東京考古』12 東京考古談話会 1994年4月（小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収）
108	清水明「泉州麻生の塩壺」『歴研通信』12 泉南歴史研究会 1994年
109	菅原道・矢作健二・植木信吾・中山経一「焼塩壺の研究（その1）—胎土分析による問題提起とその検討—」『日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 1994年6月
110	藤田邦雄「焼塩壺その弐」『石川考古』223 石川考古学研究会 1994年6月
111	滝川重徳「焼塩壺その参」『石川考古』224 石川考古学研究会 1994年8月
112	長佐古真也「丸の内三丁目遺跡出土焼塩壺の胎土分析」（東京都埋蔵文化財センター（岩橋陽一・武笠多恵子）編1994年9月『丸の内三丁目遺跡—東京国際フォーラム建設予定地の江戸遺跡の調査—』東京都埋蔵文化財センター調査報告第17集 財団法人東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター・東京都生活文化局）
113	菅原道「焼塩壺の計量分析」『考古学における計量分析—計量考古学への道4—』帝塚山考古学研究所・統計数理研究所 1994年10月
114	近世史料研究会編1994年10月『江戸町触集成』第2巻 塙書房
115	小川望「泉州麻生」の刻印をもつ焼塩壺に関する一考察『日本考古学』1 日本考古学協会 1994年11月（小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収）
116	田中一廣「京都岩倉木野の『焼塩壺』—藤本家所蔵資料の紹介をかねて—」『中近世土器の基礎研究』10 中世土器研究会 1994年12月
117	積山洋「近世大坂出土の土師質土器編年、素描」『大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要』3 財団法人大阪府埋蔵文化財協会 1995年3月
118	北陸近世遺跡研究会（藤田邦雄・木立雅朗・滝川重徳ほか）・奥田尚「北陸の焼塩壺—金沢城下出土の鉢形焼塩壺を中心に—」『石川考古学研究会会誌』第38号 石川考古学研究会 1995年3月
119	菅原道「焼塩壺」（都立学校遺跡調査会（長井光彦・福井一也・小日置晴展・菅原道ほか）編1995年3月『本郷元町—都立工芸高等学校（先端技術教育センター）地点—』都立学校遺跡調査会）
120	伊藤末子「火だすき」のついた焼塩壺と蓋『東京考古』13 東京考古談話会 1995年4月
121	小川望「泉湊伊織」の刻印をもつ焼塩壺について—法量分布による若干の考察—『東京考古』13 東京考古談話会 1995年4月（小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収）
122	小川貴司「土器製作技術と実験と（1）考古学にとっての土器製作実験」『江戸在地系土器研究会通信』49 江戸在地系土器研究会 1995年11月
123	田中一廣「京の『焼塩壺』二種—中ノ院家出土遺物補遺と妙心寺塔頭遺物その後—」『花園史学』第16号 花園大学史学会 1995年11月
124	井汲隆夫「市谷仲之町遺跡第3次調査における「かわらけ溜」に関する考察」（新宿区遺跡調査会（栩木真・井汲隆夫）編1995年12月『東京都新宿区 市谷仲之町遺跡3—（仮称）新宿区防災センター建設に伴う緊急発掘調査報告書—』新宿区遺跡調査会）
125	小川貴司「土器製作技術と実験と（2）ロクロ製作技法とその製品の見所」『江戸在地系土器研究会通信』50 江戸在地系土器研究会 1996年1月
126	菅原道「焼塩壺に関する統計推理的考察」（汐留地区遺跡調査会（木村淑徳・山田康晴）編1996年3月『汐留遺跡—汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書—』汐留地区遺跡調査会（全3冊、第1分冊（遺跡の概要と近世の遺構）、第2分冊（近世の遺物）、第3分冊（近代の遺構遺物、科学分析、考察））
127	小川貴司「土器製作技術と実験と（3）近世の土器製作技法の復元に対して」『江戸在地系土器研究会通信』51 江戸在地系土器研究会 1996年3月

128	両角まり「近世における土器の型式と系統—土師質塩壺類の胎土分析—」『東京考古』14 東京考古談話会 1996年4月
129	小川望「焼塩壺の“生産者”に関する一考察—「泉州磨生」の刻印をもつ焼塩壺を例として—」『古代』101号 早稲田大学考古学会 1996年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
130	星梓「明治期の焼塩史料に関する覚書」『江戸在地系土器研究会通信』54 江戸在地系土器研究会 1996年9月
131	長佐古真也「蛍光X線分析法による焼塩壺胎土の元素組成分析」(都内遺跡調査会永田町二丁目地内調査団(宮崎博・伊藤敏行)編 1996年9月『溜池遺跡—総理大臣官邸基盤整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』都内遺跡調査会・総理府(全2冊、第1分冊、第2分冊)
132	小川望・堀内秀樹・坂野貞子「江戸遺跡における土器・陶磁器の編年」『掘り出された都市—江戸・長崎・アムステルダム・ロンドン・ニューヨーク[展示解説]』江戸東京博物館 1996年10月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
133	小川望「焼塩壺—泉州麻生・泉州磨生・泉州麻玉—」『東京大学コレクション3 歴史の文字 記載・活字・活版』東京大学総合博物館 1996年10月
134	小川望「焼塩壺の刻印による年代観について—「泉州麻生」と「御壺塩師/堺湊伊織」を中心に—」『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題2 発表要旨』江戸陶磁土器研究グループ 1996年12月
135	小林謙一「江戸在地系土器と江戸出土土師質塩壺類の編年(要旨)」『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題2 発表要旨』江戸陶磁土器研究グループ 1996年12月
136	両角まり「C1—d—ホ系土師質塩壺類の型式学的検討」『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題2 発表要旨』江戸陶磁土器研究グループ 1996年12月
137	大塚達朗「江戸出土の塩壺」『考古学による日本歴史9 交易と交通』雄山閣出版 1997年2月
138	小川望「塩壺の成形技法に関する問題点(上)・(下)—討論会(その2)に向けて—」『江戸在地系土器研究会通信』57・58 江戸在地系土器研究会 1997年
139	小川望「平成館地点・法隆寺宝物館地点出土の焼塩壺の検討」(東京国立博物館建設構内発掘調査団(望月幹夫・谷豊信)編 1997年3月『上野忍岡遺跡群—東京国立博物館平成館(仮称)および法隆寺宝物館建設地点発掘調査報告書1(総括編)』東京国立博物館構内発掘調査団)
140	川口宏海「伊丹郷町遺跡出土の湊焼」『藤井克己氏追悼論文集』藤井克己氏追悼論文集刊行会 1997年10月
141	小川望「江戸在地系土器型録15 ロクロ成形の焼塩壺—1」『東京の遺跡』57 東京考古談話会 1997年10月
142	小川望「江戸在地系土器型録16 ロクロ成形の焼塩壺—2」『東京の遺跡』58 東京考古談話会 1997年12月
143	小川望「近世江戸出土の土器類」『江戸と周辺地域 江戸遺跡研究会第11回大会発表要旨』江戸遺跡研究会 1998年1月
144	藤沢敦「仙台城における土師質・瓦質土器の変遷」(東北大学埋蔵文化財調査研究センター(藤沢敦・関根達人・菊池佳子)編 1998年2月『東北大学埋蔵文化財調査年報 9』東北大学埋蔵文化財調査研究センター)
145	近世史料研究会編 1998年3月『江戸町触集成』第9巻 塙書房
146	矢作健二・植木信吾・橋本真紀夫・齋藤紀行「近世江戸遺跡から出土した焼塩壺」『PALYNO』No.3 パリノサーヴェイ株式会社 1998年4月
147	小川貴司「板造り焼塩壺の製作技法とその系譜」『江戸在地系土器の研究』3 江戸在地系土器研究会 1998年5月
148	小川望「江戸における近世初頭の焼塩壺様相」『江戸在地系土器の研究』3 江戸在地系土器研究会 1998年5月
149	桐生直彦「江戸近郊の焼塩壺2」『江戸在地系土器の研究』3 江戸在地系土器研究会 1998年5月
150	加賀翠溪編 1998年10月「十二 勝俣銓吉郎出品 昭和十一年五月廿六日出品 焼塩壺」『続日本随筆大成別冊 新耽奇会図録』吉川弘文館
151	塚本学(校注) 1998年11月『戸田茂睡著、御当代記』將軍綱吉の時代 東洋文庫643 平凡社
152	小川望「江戸出土土器類の概観—上方との比較に向けて—」『上方と江戸—近世考古学から見た東西文化の差異—(第10回関西近世考古学研究会大会資料集)』関西近世考古学研究会 1998年12月

153	成瀬晃司・長佐古真也「江戸遺跡における17世紀代の「供膳具」の様相」『上方と江戸—近世考古学から見た東西文化の差異—（第10回関西近世考古学研究会大会資料集）』関西近世考古学研究会 1998年12月
154	積山洋「大坂の土師質土器—調理具・照明・焼塩壺を中心に—」『上方と江戸—近世考古学から見た東西文化の差異—（第10回関西近世考古学研究会大会資料集）』関西近世考古学研究会 1998年12月
155	伊藤さやか「豊島区雑司が谷遺跡出土の墨書のある焼塩壺について」『東京考古』17 東京考古談話会 1999年
156	小川望「『武蔵野』口絵の焼塩壺」『江戸在地系土器研究会通信』68 江戸在地系土器研究会 1999年
157	森村健一「堺出土の焼塩壺 出現から17世紀中葉までの編年案」『江戸在地系土器研究会通信』69 江戸在地系土器研究会 1999年
158	積山洋「大坂の土師質土器3 焼塩壺」『関西近世考古学研究』7 関西近世考古学研究会 1999年12月
159	堀内秀樹・成瀬晃司・大貫浩子・大成可乃・安芸鞠子・坂野貞子「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(1)」(東京大学埋蔵文化財調査室編1999年3月『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要2 別冊』東京大学埋蔵文化財調査室)
160	小川望「出土遺物から見た江戸在地系土器の展開」『隅田川・江戸川流域のやきもの』葛飾区郷土と天文の博物館 1999年11月
161	小川望「江戸遺跡出土土器の諸様相」『関西近世考古学研究』7 関西近世考古学研究会 1999年12月
162	小川望「土器からみた江戸と国元—江戸在地系土器と焼塩壺—」『江戸と国元 江戸遺跡研究会第13回大会発表要旨』江戸遺跡研究会 2000年1月
163	池田悦夫「江戸出土の焼塩壺と考古学的一考察」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
164	金森安孝「仙台城出土の焼塩壺」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
165	日下正剛「徳島城下町とその周辺地域における焼塩壺出土の様相」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
166	小谷寛「小谷城郷土館所蔵の焼塩壺」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
167	小谷寛・森村紀代「焼塩壺の誕生と発展」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
168	田中一廣「泉州名産の『焼塩壺』—ものの始まり堺『焼塩壺』特別展より—」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
169	七生光一郎「『伊豫松山』の焼塩壺—愛媛県松山市松山城付近の遺跡出土資料紹介—」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
170	乗岡実「岡山城出土の焼塩壺」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
171	前川浩一「焼塩壺のふるさと—大阪府貝塚市の事例—」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
172	増山仁「金沢城下出土の焼塩壺」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
173	松田訓「愛知の焼塩壺—名古屋城三の丸地区出土資料を中心として—」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
174	森村健一「16世紀中葉出現の堺焼塩壺について—堺環濠都市遺跡出土例から—」『シンポジウム 焼塩壺の旅—ものの始まり堺—』—小谷方明の焼塩壺の研究から70年の時を経て— 財団法人小谷城郷土館・関西近世考古学研究会 2000年3月
175	南川孝「摂津国・和泉国の花塩屋と壺塩屋—文字資料の整理と検討(一)—」『摂河泉』29 摂河泉地域史研究会 2000年
176	梅村久美「御府内外における焼塩壺の様相—口クロ成形を中心に—」『江戸在地系土器の研究』4 江戸在地系土器研究会 2000年5月
177	小川望「『堺本湊焼/吉右衛門』の刻印を持つ焼塩壺—「御壺塩師/堺湊伊織」との系譜関係を中心に—」『江戸在地系土器の研究』4 江戸在地系土器研究会 2000年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
178	山中敏彦「第78回勉強会のコメントを補足して 渡辺誠氏の85年論文「焼塩」の壺焼塩の生産地、京都市伏見区深草の部分に関するノート」『江戸在地系土器研究会通信』78 江戸在地系土器研究会 2001年

179	パリオ・サーヴェイ株式会社「飯田城下町出土焼塩壺の胎土分析」(飯田市教育委員会(馬場保之・藤原直人)編2001年3月『飯田城下町遺跡』飯田市教育委員会)
180	小川望「飲食具2 焼塩壺」(江戸遺跡研究会編2001年4月『図説 江戸考古学研究事典』柏書房)
181	小川望「焼塩壺」(林英夫・青木美智男編2001年10月『事典 しらべる江戸時代』柏書房)
182	秋岡礼子「新宿区三栄町遺跡出土の焼塩壺」『江戸在地系土器の研究』5 江戸在地系土器研究会 2002年
183	山中敏彦「宴会の膳に焼塩を置く」『江戸在地系土器の研究』5 江戸在地系土器研究会 2002年
184	松田訓「統計処理からみた焼塩壺一名古屋城三の丸遺跡出土資料を中心とし」(藤井直正氏の古稀を祝う会編2002年12月『摂河泉とその周辺の考古学 藤井直正氏古稀記念論文集』真陽社)
185	能芝勉「京都伏見・深草の土師質製品について」『江戸遺跡研究会第16回大会発表要旨 遺跡からみた江戸のゴミ』江戸遺跡研究会 2003年2月
186	山中敏彦「瓦屋と焼塩 その1 一第90回勉強会に参加して」『江戸在地系土器研究会通信』85 江戸在地系土器研究会 2003年
187	パリオ・サーベイ株式会社「瓦および土器の胎土分析」(弘前市教育委員会(岡本康嗣)編2003年3月『史跡津軽氏城跡(弘前城跡)弘前城北の郭発掘調査報告書』弘前市教育委員会)
188	井関文明「小田原城における元禄期以前の陶磁器群について—小田原4期の変遷を中心に—」『考古論叢 神奈河』第11集 神奈川県考古学会 2003年4月
189	小川望「技術の系統から見た焼塩壺の生産単位—成形技法と刻印を読み解く—」『メタアーケオロジー』4 (特集 テクノロジーの物質文化学) メタアーケオロジー研究会 2003年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
190	小川祐司「坂町遺跡4号遺構に見る廃棄のあり方」『遺跡からみた江戸のゴミ 江戸遺跡研究会第16回大会発表要旨』江戸遺跡研究会 2003年9月
191	小川望「中央区明石町遺跡出土の鉢形焼塩壺」『江戸在地系土器研究会通信』87 江戸在地系土器研究会 2004年(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
192	小川望「平成館地点・法隆寺宝物館地点出土の焼塩壺の検討」(東京国立博物館建設構内発掘調査団(望月幹夫・谷豊信)編2004年4月『上野寛永寺旧本坊関連遺跡 東京国立博物館平成館および法隆寺宝物館建設地点発掘調査報告書1(総括編)』東京堂出版)
193	山中敏彦「焼塩屋権兵衛」に関するノート『伏見人形の原型』を読んで一『東京考古』22 東京考古談話会 2004年5月
194	小川望「いわゆる「大極上上吉改」の刻印をもつ焼塩壺」『江戸在地系土器研究会通信』91 江戸在地系土器研究会 2005年(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
195	小森俊寛2005年11月『京(みやこ)から出土する土器の編年的研究—日本律令の土器様式の成立と展開、7~19世紀—』京都編集工房
196	小川望「墨書を有する焼塩壺—江戸遺跡出土資料から—」『メタアーケオロジー』5号(特集 日常実践の物質文化学) メタアーケオロジー研究会 2006年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
197	小川望「ミなど/宗兵衛」の刻印をもつ焼塩壺に関する続論『江戸在地系土器研究会通信』93 江戸在地系土器研究会 2006年(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
198	小川望「焼塩壺の蓋—江戸遺跡出土資料を中心とし—」『江戸在地系土器の研究』6 江戸在地系土器研究会 2006年5月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
199	小川望・五寸嵐彰「港区No.149<遺跡>(環状2号線新橋・虎ノ門地区)出土の焼塩壺2例」『江戸在地系土器の研究』6 江戸在地系土器研究会 2006年5月
200	小川望・毎田佳奈子「港区No.107遺跡出の『○泉』の刻印をもつ焼塩壺」『江戸在地系土器の研究』6 江戸在地系土器研究会 2006年5月
201	鈴木裕子「江戸遺跡出土の型押し成形の焼塩壺」『江戸在地系土器の研究』6 江戸在地系土器研究会 2006年5月
202	福原茂樹「広島城跡出土の焼塩壺について」『江戸在地系土器の研究』6 江戸在地系土器研究会 2006年5月
203	柳谷博「サカイ 泉川磨生 御塩所」の刻印銘を有する焼塩壺について(染井遺跡「プラウド駒込地区」発掘調査団(小川裕司・宮川和也・柳谷博)編2006年8月『染井11—東京豊島区・染井遺跡「プラウド駒込地区」の発掘調査』豊島区遺跡調査会調査報告16 豊島区遺跡調査会(全2冊、第1分冊、第2分冊))

204	柳谷博「江戸在地系」焼塩壺の蓋一特に外面に指頭痕のある蓋について」（染井遺跡「プライド駒込地区」発掘調査団(小川裕司・宮川和也・柳谷博)編2006年8月『染井11ー東京豊島区・染井遺跡「プライド駒込地区」の発掘調査』豊島区遺跡調査会調査報告16 豊島区遺跡調査会(全2冊、第1分冊、第2分冊))
205	バリノサーベイ株式会社「焼塩壺の胎土分析」（染井遺跡「プライド駒込地区」発掘調査団(小川裕司・宮川和也・柳谷博)編2006年8月『染井11ー東京豊島区・染井遺跡「プライド駒込地区」の発掘調査』豊島区遺跡調査会調査報告16 豊島区遺跡調査会(全2冊、第1分冊、第2分冊))
206	小川望「焼塩壺の遍在と偏在ー江戸遺跡出土資料の分析ー」（東京大学考古学研究室(藤本強)編2006年10月『生業の考古学』同成社)
207	小川望「続・焼塩壺の遍在と偏在ー汎列島の様相ー」『國學院大學考古学資料館紀要』第23輯 國學院大學考古学資料館 2007年3月(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
208	小川望「類例の希少な「泉州麻生」の一例」『江戸在地系土器研究会通信』94 江戸在地系土器研究会 2007年(小川望2008年『焼塩壺と近世の考古学』同成社所収)
209	小川望2008年9月『焼塩壺と近世の考古学』同成社
210	渡辺誠2009年10月「焼塩壺の一つの流れーいわき市泉城から豊田市挙母城へー」『いわき地方史研究』第46号 いわき地方史研究会
211	柴田恵子「(2)武家屋敷地区第7地点出土の18世紀前葉の遺物についての検討」（東北大学埋蔵文化財調査室(藤沢敦・柴田恵子・高木暢亮・菅野智則)編2010年3月『東北大学埋蔵文化財調査年報19 第5分冊 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点の調査分析・考察』東北大学埋蔵文化財調査室)
212	「染井の殿様が好んだ焼塩の味」『つたのは通信』第10号 特定非営利活動法人としま遺跡調査会 2010年7月22日
213	渡辺芳郎「鹿児島島出土の近世焼塩壺について」『古文化談叢』第65集一 (2) < 発刊35周年 小田富士雄先生喜寿記念号(2) > 九州古文化研究会 2010年12月
214	大成可乃「第4部 東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類(2)」（東京大学埋蔵文化財調査室(堀内秀樹・成瀬晃司・小林照子)編2011年3月『東京大学構内遺跡調査研究年報7 2007・2008年度』東京大学埋蔵文化財調査室)
215	阿部賢治「松江城下町遺跡(殿町287番地・279番地外)出土の焼塩壺について」（松江市教育文化振興事業団(石川崇ほか)編2011年3月『松江城下町遺跡(殿町287番地)・(殿町279番地外)発掘調査報告書 自然科学分析・写真図版編』松江市文化財調査報告書第139集 松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団)
216	奈良市埋蔵文化財調査センター編2012年10月『「奈良町」の考古学ー発掘された近世・近代の奈良ー』平成24年度秋季特別展図録 奈良市教育委員会
217	小川望「焼塩壺」『季刊考古学』128 雄山閣 2014年8月
218	奈良市埋蔵文化財調査センター(中島和彦)編2015年10月『平成27年度秋季特別展 近世奈良の開幕ー多聞城と郡山城ー』解説パンフレット 奈良市教育委員会
219	中島和彦「辛いものと甘いもの 焼塩壺と飴壺」（奈良市埋蔵文化財調査センター編2016年8月『奈良を掘る』奈良市教育委員会)
220	渡辺誠「土浦城跡出土の滴水瓦と焼塩壺」『博古研究』54 博古研究会 2017年10月
221	小川望「江戸時代のブランド品ー焼塩壺の刻印の模倣から見た商習慣ー」『月刊考古学ジャーナル』715 ニューサイエンス社 2018年8月
222	堀内秀樹「医学部教育研究棟地点の発掘調査成果と土地利用1 天和2(1682)年まで」（東京大学埋蔵文化財調査室(堀内秀樹・小林照子)編2019年3月『東京大学本郷構内の遺跡 医学部教育研究棟地点 研究編』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書14 東京大学埋蔵文化財調査室)
223	小林照子「本郷構内出土白色系かわらけの消長」（東京大学埋蔵文化財調査室(堀内秀樹・小林照子)編2019年3月『東京大学本郷構内の遺跡 医学部教育研究棟地点 研究編』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書14 東京大学埋蔵文化財調査室)
224	納屋内高史「考古資料から見た近世富山の食文化」『富山市の遺跡物語 No.20』富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2019年3月
225	小川望「焼塩壺」（小川望編2019年12月『江戸の土器』考古学ハンドブック19 ニューサイエンス社)
226	堀内秀樹「薬学部南館地点・薬学部資料館地点の成果と藩邸初期の景観」（東京大学埋蔵文化財調査室(堀内秀樹・香取祐一・小林照子)編2021年3月『東京大学本郷構内の遺跡 薬学部南館地点 薬学部資料館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書16 東京大学埋蔵文化財調査室)